

記念貨幣入りハードカバー切手帳（香川県）

●ケース表イメージ

●ケース裏イメージ



●内側（三つ折り）イメージ



香川県

香川県は、日本で初めての国立公園に指定された瀬戸内海国立公園の中心に位置し、四国の東北部にあります。地形は半月型で、南部には讃岐山脈が縦断なり、北部には讃岐平野が展開しています。河川はおおむね讃岐山脈に源を発し、北流して瀬戸内海に注いでいます。面積は全国で最小小く(1,876.55 km²)、平地と山地はおよそ半ばしています。北は瀬戸内海をはさんで、瀬戸大橋で岡山県と結ばれ、東及び南は徳島県に、西は愛媛県と接しています。海岸線の延長は約723kmで、海面には多数の島が存在し、風光はまさに美しいものがあります。気候は、四季を通じて温暖少雨で、気候温和、明るい瀬戸内海の気候に恵まれています。

香川県章
カガワの漢文字の「カ」をデザインしたもので、香川県の特色ある山岳と、平野のシンボルである梅花・橘と「サ」の葉を表現し、恵まれた風土にはぐくまれて、向上発展を続ける香川県のすがたを象徴しています。
(1987(昭和62)年5月19日制定)

香川県の鳥 (オリーブ)
去くから歳や時々に多く見られる鳥で、県内に広く生息し、よく知られています。夏の渡り鳥ですが、香川県でよく繁殖します。昆虫、特に、毛虫を食べるので有益です。
(1966(昭和41)年5月19日制定)

香川県の花 (オリーブ)
モモセイゴの常緑樹で、初夏に白い小さな花をつけ、7〜10月にかけて、平和と北風の象徴です。明治12年(1879)年(昭和20)年のNHK祝賀記念金貨で発表されました。オリーブは香川県の基本であります。

500円ハイカラー・クラッド貨幣

ハイカラー・クラッド貨幣とは、周囲の長い金線を組み合わせた「ハイカラー」技術で、金貨と異なる種類の金銀合金でつくられた「クラッド」金貨を組み合わせたものです。

【香川県】表裏『金刀比羅宮から讃岐平野』

◎金刀比羅宮から讃岐平野の風景をデザインしています。
金刀比羅宮：古くから「さかひのこころふる」として親しまれる、香川県を代表する名所。海の守護神として知られ、全国から年間約30万人が訪れる。本宮まで785段、奥社まで1,369段の石段を登るお参りの道は、信託産業文化財である「参道」。神社、分霊所から各種祭物が点在するほか、「宝物館」などには非常に貴重な美術品や文化財が展示されている。風景が美しい、参道の両側に参拝客を導く土の道である。

讃岐平野：瀬戸内海と讃岐山脈に挟まれた、四国を代表する平野。おむすび祭の登山や1万4千を越えるたけのこが産出、独特の景観を形成している。

500円ハイカラー・クラッド貨幣の概要

種類	500円
素材	ニッケル合金、白銅及び銅
高さ	約1.5mm、厚さは5%、ニッケルは12.5%
重量	7.8g
発行	2017年10月1日
その他の特徴	異形デザイン、磨後等

(各都道府県共通)
裏面『古橋のイメージ』